

| 富士見市文化芸術振興条例等策定検討委員会 第2回会議録 | |
|--|---|
| 日時 | 平成23年7月19日(火)18:30~20:30 |
| 会場 | 水谷公民館 会議室 |
| 出席者 (欠席者) | <p>■委員(順不同・敬称略) 加藤健司、西村繁雄、野村東央留、秋元節子、阿部恵美子、岡田一忠、大橋民子、吉川節男、井上一晴、並木克美、松井憲太郎、今井寛</p> <p>■専門委員(敬称略) 市橋秀夫</p> <p>■事務局 市川地域文化振興課長、近藤主査、原山主事補</p> <p>《欠席者》</p> <p>■委員(順不同・敬称略) 山下洋子、多田淳之介</p> |
| 傍聴人 | あり(1名) |
| 会議内容 | <p>1 会議開会 地域文化振興課長</p> <p>2 資料説明 事務局より、資料の配布・説明を行なった。</p> <p>3 議事 進行：委員長 (1) 条例の全体のイメージについて 委員長) 本日の会議は、条例の具体的な条文を考える前段階として、日頃から各自が考えている「富士見市における文化芸術の将来像」について、率直に語り合う場としたい。 委員) 今回の議論を進めるうえでは、「文化」とは何か、「芸術」とは何かという定義を考える必要がある。 委員) 「文化」と「芸術」の定義をそれぞれ明確に言い切るということというよりは、議論の中で区別して考えることだと思う。 委員) 富士見市で縄文時代以降培われてきた歴史・風土を</p> |

活かしながら、次世代である子ども達に「住んでよかった」と思われるようなまちづくりが必要だと思う。文化芸術振興条例策定もそのひとつの手段だと思う。

委員) 若いうちに上質な文化芸術にふれることで、豊かな感性、健全な精神を育めるのではないかと考える。子どもが文化芸術にふれる機会を増やせるようにしたい。

委員) 子どもは親や周りの大人を見て育つため、子どもだけではなく大人にも目を向けた文化芸術施策も必要ではないだろうか。働く世代も文化芸術にふれられるようにするべきではないか。

委員) 市民の活動において20代～50代の参加が少ないと感じる。子ども時代に豊かな文化芸術にふれる機会のなかった世代が親になっている時代なのではないか。“60代になり、生活にゆとりができたなら芸術活動に参加する”というライフスタイルになってしまっている。

委員) 生活にゆとりがあっても、幼い頃の経験がなければ文化芸術活動に参加しないのではないか。先行投資ではないが、子どもの頃に豊かな経験をさせることは大切だと考える。

委員) やはりまだ、文化芸術にふれる環境が不十分ということなのではないか。条例策定の効果として、20代～50代の市民に文化芸術にふれる機会をもたすことはできないものだろうか。

委員) 環境づくりにおいて言えば、「キラリふじみ」が拠点になって、演劇・音楽・美術など鑑賞できる。ただし、文化芸術と呼べるジャンルは幅広い。たとえば文芸など、現在の「キラリふじみ」では主だった活動が希薄な分野もある。それらを「キラリふじみ」とどういう関係を持たせていけるかが問題だ。

委員) 3月に行なわれたシンポジウムでも話が出たが、条例を作って環境整備を行うには、現在の状況に問題意識を持つことが必要だ。やはり、現代社会に必要なものを創り出すことが求められている。ただし、昔のままのやり方では、現代の人の心をつなぐことはできな

い。だからといって、「文化芸術は明るい未来を創るうえで切り札になります」「文化芸術さえあれば明るい未来を築くことができます」などと言い切ることも、未来を作ることの実態に踏み込めていないようであらわれる。現在不足しているものや、あるいは身の回りにすでにあるけれど、改めて手をかける必要があるものといったところに目を向けた方が良いのではと考える。富士見市には、伝統的な農村型コミュニティ、60～70年代頃に市内に転居してこられた方々によるコミュニティ、そして近年の都市化に伴うコミュニティがあると思う。そういう違ったコミュニティの方々が合流できるイベントがあればとも考える。

委員) 芸術は、問題のない社会よりはさまざまな問題を抱えた社会で展開したほうが面白いものが生まれるのではないか。芸術活動においては、輝かしい未来に目を向けるのではなく、自分たちの抱える難しい問題を見つめたほうが、発展的になったり自分たちなりのテーマが浮かび上がったりする。「輝かしいものを創ろう」と思ってやるのは漠然としていて大変なことだが、「この問題に目を向けよう」と思えば具体的な手がかりが見えてくるからではないか。

委員) 全市民が文化芸術に参加しやすい環境づくり、そしてそれを推進する方策が必要だ。さきほど、子どもに限らず着目したいという意見も出た20代～50代だが、生活の中でさまざまな悩みや問題を抱えている人が少なくないのではないか。そういった方々がより心豊かな生活を送れるようにするためにも、文化芸術の力は必要である。市民の方の文化芸術活動の入り口とも言えるキラリふじみの活用については、特に子ども、高齢者、障がい者のニーズを優先すべきだと考える。富士見市は都心まで一時間以内で行くことができる至便な地域でもあるが、出かけることが難しい方々もいらっしゃるので、地元で多彩で上質なものを提供することが求められると考える。

専門委員) いろんなご意見があったが、やはり考えなくてはならないのが、なぜ文化芸術でなくてはいけないのか、

という問題だ。スポーツや福祉でも、健全な心の育成や、人と人を繋ぐことはできる。文化芸術にしかできないこととは何かという部分を今後話し合えたらと考える。

(2) 次回会議日程、計画について

次回の視察研修の会議日程について調整を行なった。

日時：8月25日（木曜日）午前10時00分

会場：杉並区立杉並芸術会館（座・高円寺）

小金井市役所

(3) その他

次々回の会議日程について調整を行なった。

日時：9月20日（火曜日）午後6時30分

会場：水谷公民館

4 閉会あいさつ
委員長

以 上

富士見市文化芸術振興条例等策定検討委員会 第2回会議 次第

日時 平成23年7月19日(火)

午後6時30分から

場所 水谷公民館 会議室

1 開 会

2 あいさつ

委員長

3 資料確認

4 議 事

議長 委員長

(1) 条例の全体イメージについて

(2) 次回会議日程、計画について

※次回は視察研修を予定しています

8月25日(木) 予定

(3) その他

5 閉 会